

授業概要

近代経済学は、19世紀末にシェボンズ（イギリス）、ワルラス（フランス）、メンガー（オーストリア）らが独立して考え出した経済学である。それまでの経済学の方法に限界概念を導入することによって、より有用な経済分析が可能となった。

ミクロ経済学は、別名「価格理論」と呼ばれるように、財やサービスの価格がどのようなプロセスを経て決定されるか、を研究対象としている。

本講義では、市場の形態と価格決定プロセスについて検討する

授業計画

第 1 回	効用（全部効用と限界効用）
第 2 回	限界効用逓減の法則、加重限界効用均等の法則
第 3 回	無差別曲線、予算線と消費者均衡
第 4 回	所得効果と代替効果
第 5 回	ボックス図表
第 6 回	需要曲線と需要の価格弾力性、売上と弾力性の関係
第 7 回	豊作貧乏、不況カルテル、薄利多売
第 8 回	供給曲線と市場均衡
第 9 回	クモの巣理論、平均生産性と限界生産性
第 10 回	総費用曲線、平均費用と限界費用
第 11 回	最適操業度、最有利操業度
第 12 回	長期最適生産規模
第 13 回	独占市場、寡占市場
第 14 回	価格差別
第 15 回	まとめ（授業内容の確認）
第 16 回	テスト

到達目標

世の中のミクロ経済現象がどのような経済法則にしたがって動いているか、について確信をもって理解できるようになることが、本講義の到達目標である。新聞などで報道されている経済事象を理解し、どのように展開し、どうなっていくかを予測できるようになってほしい。

履修上の注意

全部のトピックを（半期で）講義するのはほぼ不可能であるので、これらの中からピックアップすることになる。講義ではできる限り新聞記事を取り上げ、新聞をよく読むことによって予習と復習が自然にできるようになるよう、指導する。

予習復習

学んだ理論がどれほど実用的であるかを確認するために、手元にあるいくつかのデータを提供する用意がある。そうしたデータを分析することによって、ミクロ経済理論の有効性を実感してほしい。

評価方法

学期末試験：60%、小テスト：20%、受講態度：20%

テキスト

どの教科書も、「帯に短し、襷に長し」で、適当なものが見当たらない。当分はテキストなしで講義を進める。参考書はその都度紹介するし、講義で用いる資料はこちらで用意する。